



2023年7月12日

日本鉄道労働組合連合会

ジェイアール・イーストユニオン第11回定期大会

すべての仲間で「前へ！」心と力を合わせて未来を切り開く！



ジェイアール・イーストユニオンは7月8日、東京都内の中央本部事務所にて第11回定期大会を開催し、新執行部を確立するとともに、2023年度の運動方針を満場一致で決定した。

冒頭、挨拶に立った菅野一位中央執行委員長（JR連合副会長）は、組合員の9割がエルダー社員となる中、組織の大変厳しい状況を

踏まえつつも、あらためて組合員の奮起を強く訴えた。また安全課題として、様々な施策が矢継ぎ早に展開されているが、現場社員、とりわけ現場管理者を含む中堅社員の理解不足のままに実施されていることが事故等の続発を生む課題であるとし、民主的な労働運動を通じて妥協なくチェック機能を果たしていく取り組みを要請した。

JR連合からは政所大祐事務局長と相良夏樹組織局長が参画し、代表挨拶に立った政所事務局長は組織の強化・拡大を最重要課題とし、組合員と理解者のネットワーク強化、世代交代期の技術継承の必要性を訴えるとともに、力強い政策活動や革マル浸透問題に対する取り組みを展開し、イーストユニオンの仲間とともに歩む決意を述べた。

議事では2022年度の経過報告や2023年度の運動方針等が提起され、7名の代議員・特別代議員から、組織強化・拡大や名取ボランティアの取り組みのほか、2023春闘、組織財政の見直し、会社営業施策や社友会の動向・課題等に関する活発な質疑・討論が行われた。既にエルダー組合員となっている代議員は、「我々もまだ繋がりがある。これを活かして組織拡大に取り組もう」と仲間の組合員に呼び掛けた。

執行部の中間答弁、菅井正和事務局長の集約答弁の後、すべての議案が満場一致で可決された。

最後に、再任された菅野中央執行委員長が「団結がんばろう」で定期大会を締めくくった。

